

患者は何を求めているか？

肝炎対策 新たなステップへの視点

1、 医療の進展と患者の思いの変化

▼講演会などを開いても最近、反応が鈍いのはなぜだろうか。

当初はウイルスも特定されていなかった。

患者のだれもが一様に不安⇒情報不足で何にでも飛び付いた

C型など治療法が確立⇒情報が多くなり、不十分な知識しかなくても「依存心」

一方で、「治る人」「治らない人」の格差が出てきた⇒あきらめも広がる

2、 C型、B型2つの肝炎訴訟

適用対象になる人、ならない人の格差が出てきた⇒あきらめも広がる

3、 「肝炎対策基本法」等の動きの中でどう変わってきたか

▼国の責任が一応は明確となり、対策が体系化

▼インターフェロンなど医療費助成が進む

しかし、既に肝硬変、肝がんになっている人には恩恵が及ばない現実がある

「身体障害」についても適用外がほとんど

ここでも取り残されてしまう人にとって、格差は深刻な形に

4、 患者会として、どのような対策を求めるか

この協議会の構成から見て、ほとんど医療対策しか考えられていない。

一方で、依然として肝がん、肝硬変がもとで患者が亡くなっているのが現実。

医療面の対策だけでは救えないのでは。

肝硬変、肝がん対策を、さまざまな仕組みを使って、きめ細かく進めてほしい。

そうしないと、最終的な解決にならない。